

生徒同士が高め合う場、 ロールモデルと出会える機会を 校内につくり続ける

変化の大きな社会を生き抜く上で必要な、自分の志である「軸」と、その「軸」に基づいて変化に柔軟に対応する「修正力」を育むために、教科外活動ではどのような役割、配慮が教師に求められるのだろうか。学校事例で話を聞いた4人の教師が集まり、教科外活動への思いを語り合った。

出席者



東京都立小山台高校
山本美園
やまもと・みその

学校事例概要 ● 様々な社会人との出会いや探究学習で構成される体系的なキャリア教育で「大学までではなく、大学からの人材」を育成。(詳細はP.6)



千葉県立船橋古和釜高校
望月正彦
もちつき・まさひこ

学校事例概要 ● 野球部で「野球ノート」や読書会などを通して生徒の考える力を伸ばし、主体的に活動できるチームづくりを進める。(詳細はP.10)



愛媛県立松山東高校
石丸隆祥
いしまる・たかよし

学校事例概要 ● 学年縦割りのグループをつくり、生徒主体で運営される運動会を通じて、リーダーシップとフォローシップを育む。(詳細はP.14)



大分県立大分舞鶴高校
田所伸
たどころ・しん

学校事例概要 ● 文化祭のクラス別ステージ発表で、田所クラスが「世界とつながる」をコンセプトに新しい劇づくりに挑戦した。(詳細はP.18)

「軸」と「修正力」をキャリア教育で育む



山本 変化する社会を生き抜くために自分の中につくる軸、

志を育むことは、高校におけるキャリア教育の重要なテーマです。私たちがしばしば「生徒の可能性は無限である」と言いますが、もちろん、私もそう確信していますが、重要なことは、生徒自身にいち早くそのことに気付かせるということです。その気付きの機会をつくり、大きな志を

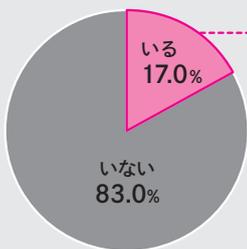
持たせることが、本校のキャリア教育プログラムの狙いです。

志は不変なものではなく、大学、社会人へと成長する過程で変わることがあります。その時に必要なのが、軸となる部分を大切にしながら、目の前の現実に対応していく修正力です。進路を変更する際には、思い込みで変えてしまうと軸から外れてしまうことがありますから、広い視野とそこから自分に必要なもの

資料 1

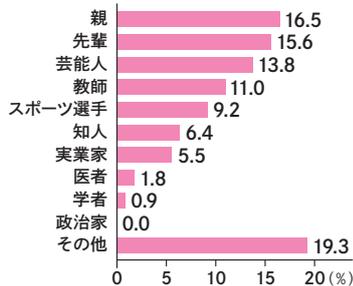
理想の大人の存在について

Q 「あの人のような生き方をしたい」と思える人はいますか。



注) 対象は高校2年生 642人。
出典/ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活・学習実態基礎調査」(2012)

理想の大人の具体例



生徒の視野を広げ、ロールモデルを発見させる進路行事が担う役割は大きい。

リーとして描き直しました。だから、第1志望の大学に不合格になるなど、自分が思い描いた通りに物事が進まない時でも、悩みながらではあります。夢を実現するためのアプローチ方法やプロセスを修正することで壁を乗り越えられましたし、その度に軸を一層太くしたのだと思います。紛れもなく、中山さんは、私たちがキャリア

を取捨選択する力も必要です。キャリア教育プログラムで情報収集力や情報分析力を高めていくことが、修正力の育成につながるのです。

山本 キャリアガイダンスで、人生の岐路を体験した多様な社会人の話

自分が置かれた状況を解釈する力を養う

を聞くことで、生徒には「あの人のように生きたい」「自分もあの人のようになれるかも」と気付いてほしいと思っています。そうなれば、大学はゴールではなく、あくまで通過点の1つになります。卒業生の中山さんは、社会人の話を受け止めて自分の軸を更には太くすると同時に、他者の生き方を自分の中で消化して、自分自身のストーリー

教育プログラムで育てようとしている人材モデルの1人です。

田所 目標に到達するためのプロセスが想定と違っても、「これは前向きな進路変更であり、安易な妥協ではない」と、自分が置かれている状況を冷静に解釈する力を、中山さんは高校時代に身に付けたのでしょう。

望月 生徒の思考や学力に合わせ

「人の中の成長」が人生の軸となる



望月 本校の野球部が一番大事にしていることは、人とのつながりです。それは、仲良く練習するということではなく、人とのやりとりを密にしていって上達し、自分の成長を実感させることです。野球に限らず、何に取り組み時でも、人とのつながりを大切にし、それを喜びとする気持ちを、人生の変わらぬ軸として持つてもらいたいと思っています。どんな進路を選んでも、生徒は人の中で生きていくわけでは

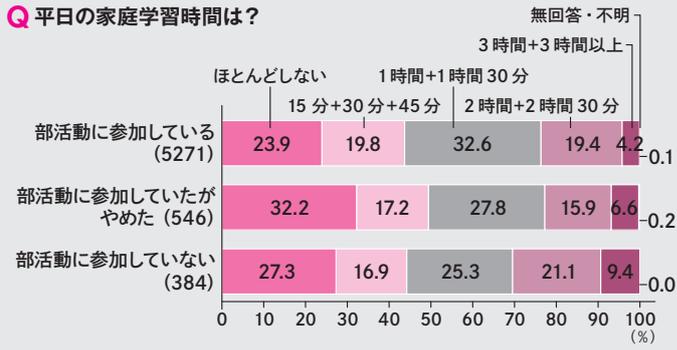
て、自分の状況を解釈するためのヒントを与えるのは教師の仕事ですよね。解釈する力がないと混乱して、感情がコントロールできなくなり、表情や態度にも出てしまいます。本校の野球部の生徒が野球ノートを書くことで、自分の状況を解釈する力を高めることは、生きるための学力を獲得することと同じだと思っています。

から、仲間を大切にして生きることの素晴らしさを高校で知ってほしいですね。

中学校と高校の野球を比べると、ルールや必要なスキルはほとんど同じです。しかし、中学校と高校では、練習への取り組み方が違います。副キャプテンの山口君は、その違いを感じていると語っていましたが、それは単にスパルタかどうかではなく、やらされている練習か、それとも自分たちでやる練習かの違いだと思いが付いていました。だから彼らは、

資料2 部活動への参加状況と平日の家庭学習時間

Q 平日の家庭学習時間は？



注) 対象は高校1・2年生 6201人。()内はサンプル数。
出典/ベネッセ教育総合研究所「第2回子ども生活実態基本調査」(2009)

部活動に参加している生徒は、参加していない生徒よりも平日の家庭学習を「ほとんどしない」の比率が低い。

く習慣を身に付けてきていない生徒が少なくありません。ペンを手に、考えることをまずは大切にさせたいという思いがありました。ですから野球ノートでは、書き方や構成などには指示を出さず、何をどんなふうにも書いてもよいことにしています。大事なのは、ノートに書かれた内容に対する私のコメントです。「夏は暑いけれど頑張ろう」など、どの生徒に対してとも言えるようなことを私が書くようでは駄目です。

心に迫る言葉を投げ掛け、生徒の成長を促す

田所 望月先生の指導をうかがって、日々の練習以外でも、自分で判断させたり、考えさせたりする場面が多いのだらうと想像しました。

石丸 野球ノートを書くことは、考えさせる場面の1つなのでしょうね。

望月 本校には、高校入学までに書く習慣を身に付けてきていない生徒が少なくありません。ペンを手に、考えることをまずは大切にさせたいという思いがありました。ですから野球ノートでは、書き方や構成などには指示を出さず、何をどんなふうにも書いてもよいことにしています。大事なのは、ノートに書かれた内容に対する私のコメントです。「夏は暑いけれど頑張ろう」など、どの生徒に対してとも言えるようなことを私が書くようでは駄目です。



「『あの人のように生きたい』という軸が自分の中に出れば、大学がゴールではなくなる」 山本

す。「君は次の試合でここを頑張れ」「この部分が伸びてきているぞ」と、一人ひとりの生徒の心に迫る言葉を掛ければ、生徒はノートを書くようになり、ノートを書かないと

全員に成功体験を味わわせる



石丸 学校行事で育まれる軸は、部活動同様、仲間と高い目標を実現することを喜びとする気持ちだと思っています。本校の運動会では様々な役割があり、適材適所を生徒たちがお互いに見付け合い、それぞれの役割を決めていきます。相手の良いところを把握しながら、同じ目標に向かって仲間と取り組むという軸をつくっていると思います。

運動会は、全ての生徒が最後に「良かった」「ありがとう」と感動を共有しながら成功体験を味わえる場

「チームメートの成長に自分は置いていかれるかも……」と、良い意味での焦りを感じ取るようになるのです。それも人との触れ合いの中での成長です。

です。また、運動会での体験を語ってくれた2年生の梶原さんは、先輩の姿から多くを学び、次の運動会のリーダーを志しています。彼女が学んだリーダー像は、周囲を引っ張るだけではなく、それぞれがどんなところで頑張る、苦労しているかを知って、全員が成功体験を味わえるような配慮が出来る人だったはずで、本校の生徒たちが、周りの人を豊かにするリーダー像を持っていくことが、私はとてもうれしいです。
望月 グループ長や副グループ長を話し合いの中で選んでいけるのは、



「人とのつながりの中での成長を喜び、
求め続けることが出来る
若者に育てたい」 望月

生徒が、良い集団をつくるためには、自分よりもふさわしい人がいた時は、自分は別の役割で全力を尽くせばいいと分かっているからです。ね。目標が明確だから、最も適切な人を選ぶことが出来るのでしよう。

田所 運動会での成功体験は、この先、何かでつまずいた時に立ち直る際の原動力となるでしょう。そうして、成功体験を土台にしながら失敗を乗り越えることで、修正力は養われていくのだと思います。

生徒の本気を後押しするのは教師の本気

山本 準備も含め、運動会をこれだけ本気で楽しめれば、勉強への切り替えも早いのではないですか？

石丸 はい、切り替えはとても上手だと思います。本校の生徒は、休み

夢を語りづらい時代に夢を語る力を育む



田所 今の生徒たちが生まれたのは、バブル経済崩壊以降で

あるため、彼らは日本社会の豊かさを実感しにくく、夢が語りにくい時代を生きていると言われます。私は、そんな時代に生きるからこそ、太い軸を持ち、大きな夢を語る生徒を育てたいと思っています。ただし、夢

時間は正直、少々騒がしく感じてしまう程、元氣です。けれども、授業の開始1分前になると、教師が何も言わなくても、すっと静かになります。遊ぶ時も本気だから、学ぶ時も本気になれるのだと、彼らを見て実感します。

私は、学校行事は、「本気の遊び

心」を開花させる場だと考えています。そして、生徒を本気にさせるためには、教師も心から学校行事を楽しまないといけないと思うのです。運動会の準備や競技に参加しなくても、生徒から「先生が一番運動会を楽しんでいましたね」と言われるくらいにのめり込むことが、生徒の本気を後押しするのだと思うのです。そして、学校行事を本気で楽しんでいるから、学校行事を地域にもっと愛してもらうために出来る配慮はなにか、本校の教師は真剣に話し合えるのだと思います。

を語るためには、今の自分の立ち位置を知らなければなりません。その時に必要になるのが、自分という存在を定義するための異文化との接触と接触するためには、校外に飛び出していくか、校内に外の世界を取り込んでいくことが必要です。そこで私は、文化祭でも、工藤君はじめ当

寄り道を楽しむ生徒を育て、社会を変える

時の田所クラスの生徒たちに世界とつながることを求めたのです。

国際機関や大学、企業などに手紙を書き、返事をもらうことで、高校生でも、アクションさえ起こせば外の世界とつながることが出来るのだと実感したでしょうし、異文化とながらするための手法やスキルをもっと知りたい、身に付けたいと彼らは思ったはずで。

田所 今の生徒に対して感じるのは、課されるものが多く、それをこなすのに精いっぱいだという事です。だから、生徒はおのずと効率性を追求するようになり、立ち止まって考え、夢を更に大きく描こうとすることが少なくなっています。だからこそ、私は生徒が立ち止まることを認めてあげたいですし、そこそこのレベルの夢で満足している時は、「君なら、もっと出来るはずだ」と目線を上げさせることを大切にしています。

「スクール」の語源は、ギリシャ語で「余暇」を意味する「スコレー」です。文化祭で優勝を目指すのはどのクラスも同じですが、効率的に練習を重ねて直線的にゴールに向かうか、寄り道をしながらゴールを目指すか、どちらの道の方がより多くの景色が見えるのかを、生徒たちは分かっていたのだと思います。更にそうした寄り道をしている間、私が待つてくれることも分かっていたのでしよう。

山本 立ち止まって考える力は、1年生のうちにくそ身に付けたいものですよね。一部の大学では、既にギャップイヤーなどを通して、寄り道をして生き方を深める力を育てようとしています。私たち高校教師もそうした変化の意味を改めて考えたいですし、社会全体が立ち止まって考える力をもっと大切にしようになればいいですね。



「まず自分ががむしやらに
高い目標を目指すことで、
生徒の夢を育めるはず」 石丸

田所 そう思います。寄り道をしながら考えることを、個人に求めるだけで終わらせず、クラス、学年、学校の中に文化として広げていきたい

夢を持ち続ける姿を生徒に見せる

石丸 生徒が大きな夢を持つためには、彼らと接する私たち教師も、大きな夢を持つことが大切だと思うのです。以前、ベテランの先生が遅くまで残っていたので、その理由を聞いてみると、「自分が作った模範解答よりも、生徒の解答の方が良い時があるんだよ。良い解答を見付ける度に採点を最初から見直すから、なかなか終わらないんだ」と笑顔でおっしゃいました。私は、「突き詰める限り仕事に終わりはなく、教師が上を目指すから生徒もついてきてくれるのだ」と、そのベテランの先生から学び、自分もそんな教師にな

です。私たち高校教師がそうした考えを持つ生徒を育てることで、大学改革や社会の変革は更に進んでいく……それが私の夢です。

りたいと心から思いました。

生徒に「大きな夢を持つとう」と語る時、田所先生のように「自分もこんな大きな夢を持っている」とか、「こんな先生になりたい」と生徒に自分を打ち明けければ、生徒もきっと「自分も夢を持つとう」と思ってくれるのではないのでしょうか。キャリアの浅い私だからこそ、あんなふうになりたい、こんなことをやってみていこうと高望みして、がむしやらにやっ

ていきたいと、今日先輩方のお話を聞いて思いました。

田所 そのがむしやらさは、きっと先輩教師が支えてくれると思えます。私は校内でいろいろ企画を出しますが、全てが通るわけではなく、中には却下されるものも、もちろんあります。そんな時にも先輩や管理職が「本当は分かっているんだ」とひと言、言ってくれるのです。先輩

たちは、私を育ててくれているのだと感じます。だからこそ、当初の企画が通らない時も、すぐには諦めず「代わりにこの企画ならどうですか」と、粘り強く提案することが出来ています。

望月 自分の案がすつと通らないからこそ、代案を考える力も付くし、粘る中で本当に大事なものを見抜いていく、そういうメリットもありますよね。教師も、跳ね返されることで修正力が付きます。

山本 かつて、キャリア教育が高校現場で始められた時もそうでしたが、新しい視点での試み、挑戦に対する受け止め方は、教師といえども人によって様々です。それでも、私たち教師は衝突を恐れずに校内に新しい取り組みを提案し、そして同じ教科、同じ分掌から、1人ずつでもいいので仲間をつくって、校内全体をゆっくと巻き込んでいきたいですね。

田所 私も学年団という同志がいるので、大きな夢が持てます。それは生徒にも言えることだと思います。校内、そして校外で、私はこれからも仲間づくりを進めていきます。

軸を持ち、生き方を修正する モデルになる

山本 社会がどう変化しても、自分の可能性を信じ、高い志を持ち続けられる生徒を育てたいと思います。もちろん、失敗はつきものですから、そこからどう修正し、再び立ち上が



るか、これからもそのヒントを与えていきたいです。いずれは小山台高校の現在のキャリア教育を経験した社会人をメンターとして迎え、身近な相談相手として生徒と接してもらうことも考えています。そうして志を持った卒業生に集まってもらい、小山台高校を発信地にして、時には学校の枠を超えながら新たな取り組みへと発展させるのが私の夢です。

望月 部活動は、本校の生徒たちにとって、「やれば出来る」ということを実感し、周囲にも示すことが出来る貴重な場です。「やり方によっては、自分たちだってこれだけのことが出来るんだ」と、彼らの自信になってくれることを望んでいます。もちろん、校内で野球部に所属するのは一部の生徒に過ぎませんが、野球部が活躍することで「うちの野球部は強いんだ」と他の生徒にとっても誇りとなります。学校を結束させる力があるのが部活動なのではないでしょうか。部活動も「本気の遊び」です。本気でやっていると自然と人は集まってくることで、本気は周りを

動かすことを実感させたいですね。

田所 本校の校是に当たる舞鶴魂は、「締まれ、頑張れ、粘れ、押し切れ」と私たちを鼓舞します。それは部活動や受験にも通じます。私は現在学年主任をしている64回生全員に、夢や目標という自分の軸、志を高く持ち、更に背伸びをしてほしいです。私は生徒に、「君たちは、今自分が何と闘い、どんなアクションを起こしているか答えられる人間になりなさい。私も、何と闘っているかを常に語れる人間であり続ける」とよく話すのですが、先日、ある女子生徒が、「私、アクションを起こしました!」と言うのです。聞くと、大分県で開催された地熱学会に参加し、進学希望先の東北大の教授に思い切って声を掛けたそうなのです。彼女はその教授から名刺をもらい、



「自分はどんな夢を持ち、何と闘っているかを生徒に語れる教師であり続けたい」**田所**

メールを介して学術に関してのコミュニケーションを構築したと、誇らしげに笑顔で私に教えてくれました。

私は、日本は教育によってもっと良い国になると本気で思っています。その思いがあるから、全国の同志とも交流を続けています。思いがあれば社会は動き、世界は変わることを信じ、これからも、自分が闘う姿を生徒に見せていきます。

石丸 私も、軸を持ち、修正していくモデルとして、自分の姿を生徒に見せたいと思います。夢を追う楽しさを生徒と語り合いながら、私に「君にはこんな力があるよ」と話したのなら、共に夢を語る同志として、生徒は私の言葉を素直に受け入れてくれるはずで。そうして、生徒の夢を大きくしたり、軸を太くしたりする手伝いが出来ればと思います。